

がんば

あ い さ つ



校長 林田 長

誕生百年
を迎える輝かしい歴史

と伝統を誇る第三小学校に、職を奉ずることになり、今更のように、身のひきしまる思いがいたします。
歴代の校長、職員の尊い汗と努力の結晶が実を結んで、県下に雄たる第三小の今日を築きあげられたことは、周知のとおりでありまして、ここに学校の責任者として、その使命の重大さを痛感いたしております。

私をはじめ、三十五名の全職員は、英知を結集して、児童の育成に専心努力いたす決意をもって、当っておるわけでありまして、本年は、とくに生活指導の徹底に重点をおき、本校児童のめざす児童像

として、次の五項目をあげております。

- 1 すなおで明るく礼儀正しい子ども。
 - 2 心身ともに健康な子ども。
 - 3 よく見、よく聞き、よく考え、自分の考えをはっきりいえる子ども。
 - 4 よく計画し、進んで実践し、粘り強く最後までやり抜く子ども。
 - 5 みんな仲良く、たがいに協力しあう子ども。
- 子どもは、限らない能力、やれば出来る力、即ち無限の可能性をもっているのです。教師も親も、この子どもの持つ無限の可能性を信じて、これを伸長することに努力しなくてはなりません。
- 学校には、学校の教育方針、教育目標、それを実現するた

報行部 印刷所
三小育友会 印刷所
島三小育友会 印刷所
発行部 印刷所
印刷所

〔第41号〕

めの具体的な努力事項(教育課程)がありまして、毎日の教育の営みが行われているわけです。現代は、学校のみでの教育を重視するばかりでなく、むしろ家庭での教育(家庭教育)にもっと大きく目を向けて、努力せねばならぬ時かと思えます。

そして、家庭教育も、学校教育のように、方針、目標、課程がなければならぬと思えます。家庭は両親を中心とした、温かい、細かな愛情に包まれた、最も自然な教育の場であります。

そして、親は最大の教育者であります。よく厳父、慈母と申しますが、きびしい父、やさしい母の姿こそ最大最高の教育であります。

家には、家の歴史と伝統があります。このよい所は、これを伝承していくよい子でありたい。地域、実社会に順応

し貢献していく子でありたい。さらに今日のきびしい社会生活に耐え、自己の力で生き抜く強じんな生活能力を持つ子に育てたい。これは、親として、誰しもが持つ子に対する親の願望でありましょう。私たちは、家庭と学校とを問わず「あまりにも夢を追いすぎて、子どもを自分の理想の偶像にしてはいけないと思えます。」

きびしすぎる、やさしすぎるとの「すぎる」はいけな

いと思えます。

いそがず、あせらず、よく見つめながら、親は、教師は常にコツコツと努力すること

新しい活動を期待して

あ い さ つ



青友会長 吉田 重信

が大事ではないでしょう。学校でも、情操教育、礼儀作法等や、忍耐、トコトンまでやり抜く実践力等は、格別努力していくつもりですが、家庭でも、こうした事項については、今後いっそうの努力をお願いしたいものです。

とにかく、一日に一度は(少くとも)、親と子一家の者が、ひとつになつて、汗して働く場と機会をもつことこそ今日の家庭で、最も大事なことでないかと思えます。

三小にまいりまして、ごあいさつをかね、私の意中の一端を申述べさせていただきます。

この度先達諸氏をさておき、会長と云う大役を仰せつかり、私自身とまどっており。青友会につきましては、昨年初めて保健体育部に席をおき、ただ会員の皆様と共に、その分担を果したに過ぎない

私でございましたが、幸にして、ベテランの副会長始め、役員の方々の御指導を仰ぎますと共に、会員皆様の御協力を心から御願ひする次第でございます。本年、創立百周年を迎えます本校三小は、その長い歴史の中に、輝かしい伝統を持っております。

その記念すべき年の育友会も又、大きく飛躍しなければなりません。数年来の懸案でありました、体育館建設も、用地の決定を見る事が出来ましたので、学校・育友会を始め、地区民の総意をあげて、早期建設に取り組まなければなりません。

育友会（P・T・A）に付しましては、色々議論がなされ、「曲り角」にきているのではないかと云われている今日、育友会（P・T・A）の本当の目的を、もう一度考えて見る必要があるのではないのでしょうか。

一年間の部活動を通して、私なりに考えています事は、P（父母）が、T（先生）にあまりにもオンブされて来たのではないかと云うことですが、その行き方から脱皮する為には、如何にすればよいか！今一度、会員の皆様と考えると見ようではありませんか。

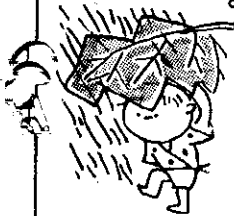
例えば、町内育友会を開催するにあたっては、その伝達事項、或は、町内の行事計画等の立案に付いて、先生にお願いするのはなく、会員皆様が、自分達のやり方、自分達の力で伝達し、立案して、先生には、指導・助言の立場に立っていただくという方法が、これからの町内育友会の

あり方ではないでしょうか。会員の皆様は、自分達で作った約束事は、実行に移し易く、ムードも盛り上げるのではないかと思えます。その盛り上りの中で、先生にも、どしどし出席をお願いするようにしたいものです。

学級P・T・Aにも同じ事がいえると思います。司会がいやで出席しないなどと云うのではなく、隣り近所の人々に、日常挨拶を交わすような気軽な気持ちで可会し、会員一人一人が協力して、盛り上げていただきたいと思えます。

学校と育友会、先生と会員その中心になるものは、何はさておき、子供達ではないでしょうか。子供達を中心に、学校、先生、育友会、会員ともしっかりと話し合いの場を多く持つことによって、お互いの気持が一つに溶け合って育友会は発展して行くのではないのでしょうか。

この一年間、三小育友会の発展に努力する所存でございますが、会員の皆様の御協力を切にお願いし、私の挨拶と致します。



学級育友会年間計画

7月	7月	9月	7月	7月
子どもの健康 子どもの遊び 夏休みの生活	夏休みの生活 子どもの健康・しつけ マンガとテレビ リクレーションについて 一年間の反省	子どものしつけ 漫画・テレビの問題 運動会の問題 算数・国語の勉強会 学級育友会の運営 学校や担任への要望 評価のあり方 現在の教育問題 （おけいごと） 徳育の問題 家庭学習 リクレーション大会	議題設定 通知表の見方 運動会のあり方 夏休みの反省 家庭学習 読書について 冬休みの生活 子どもの健康・しつけ マンガとテレビ リクレーションについて 一年間の反省	夏休みのくらし 通知表の見方 宿題と家庭学習 子どものしつけについて ことばづかい 女子の髪・あそび 上級生としてのたいど リクレーション （種目未定） マンガ、テレビ、読書 について 健康について 給食・カゼ 教育講座（講演会等） 学級での懇談
三 年	二 年	四 年	一 年	五 年
7月	7月	7月	7月	7月
子どもの健康 子どもの遊び 夏休みの生活	夏休みの生活 しつけ 本の選び方 ドッジボール大会 テレビの見方 小づかいの与え方 12月の反省 冬の遊び 2月 年間の反省 3月	夏休みのくらし方 （水泳教室、救助法） 夏休みの反省、親子 対話（遊び、学習） 家庭学習のさせ方 （読書指導を中心に） 給食についての話し合 い（学校長を囲んで） 冬休みのくらし 12月 親子競技会（ボール運 動） 1月 家庭教育（躰の問題） について（教頭先生） 2月 年間の反省 3月	議題設定 通知表の見方 運動会のあり方 夏休みの反省 家庭学習 読書について 冬休みの生活 子どもの健康・しつけ マンガとテレビ リクレーションについて 一年間の反省	夏休みのくらし 通知表の見方 宿題と家庭学習 子どものしつけについて ことばづかい 女子の髪・あそび 上級生としてのたいど リクレーション （種目未定） マンガ、テレビ、読書 について 健康について 給食・カゼ 教育講座（講演会等） 学級での懇談
三 年	二 年	四 年	一 年	五 年
7月	7月	7月	7月	7月
子どもの健康 子どもの遊び 夏休みの生活	夏休みのくらし方 （水泳教室、救助法） 夏休みの反省、親子 対話（遊び、学習） 家庭学習のさせ方 （読書指導を中心に） 給食についての話し合 い（学校長を囲んで） 冬休みのくらし 12月 親子競技会（ボール運 動） 1月 家庭教育（躰の問題） について（教頭先生） 2月 年間の反省 3月	夏休みのくらし方 （水泳教室、救助法） 夏休みの反省、親子 対話（遊び、学習） 家庭学習のさせ方 （読書指導を中心に） 給食についての話し合 い（学校長を囲んで） 冬休みのくらし 12月 親子競技会（ボール運 動） 1月 家庭教育（躰の問題） について（教頭先生） 2月 年間の反省 3月	議題設定 通知表の見方 運動会のあり方 夏休みの反省 家庭学習 読書について 冬休みの生活 子どもの健康・しつけ マンガとテレビ リクレーションについて 一年間の反省	夏休みのくらし 通知表の見方 宿題と家庭学習 子どものしつけについて ことばづかい 女子の髪・あそび 上級生としてのたいど リクレーション （種目未定） マンガ、テレビ、読書 について 健康について 給食・カゼ 教育講座（講演会等） 学級での懇談
三 年	二 年	四 年	一 年	五 年

専門部活動計画

昭和四十九年度

具 体 目 標

年 間 事 業 計 画

具 体 目 標

年 間 事 業 計 画

学 級 部	教 養 部	生 活 部	部
<p>学級・学年育友会運営の充実向上を図るために各種の対策に取り組む</p>	<p>一、教育の理解を深める 二、会員の親睦と研修 三、育友会文庫の運営 四、出席率の向上と時間の厳守</p>	<p>校外における生活指導の計画を推進し、少年団活動の育成に努力する</p>	<p>一、各町内の環境調査と検討 二、約束を守らるう 三、約束を守らせることによって子どもに社会の一員であることを自覚させる 四、少年団及び学校のきまりを理解させ守るよう努める 五、少年団の自主的活動を推進する 六、夏休みレクリエーションの再検討 七、旅行の資料を作成し町内育友会へ配布する 八、毎月一回部会を開き情報交換及び持ちより議題で討議する</p>
<p>一、学級育友会の出席率の向上につとめる 二、正副学級代議員を含め地区別に世帯別をきめ誘い合わせて全員出席するようにつとめる 三、育友会はなんでも話しあえるなごやかな雰囲気を作り魅力のある会合の場とする 四、父親の出席を高めるよう努める 五、学級代議員の全体研修会を開く(二回) 六、家庭の学習、しつけ方、親としてのあり方、教育上のなやみ、体験発表、意見交換、社会における司会の仕方の勉強会</p>	<p>一、研修旅行(六月中旬・具体計画別送) 二、育友会文庫の年間巡回実施 三、講演会 四、文化連盟主催の講演会に積極的に参加する 五、会員の教養を高め家庭教育のあり方について各部と協議して行う 六、各種研修会及び講習会への参加 七、親子五分間読書 八、毎日各家庭で親子読書を行うよう啓蒙する 九、各種会合の出席率の向上と集会時間の厳守</p>	<p>一、各町内の環境調査と検討 二、約束を守らるう 三、約束を守らせることによって子どもに社会の一員であることを自覚させる 四、少年団及び学校のきまりを理解させ守るよう努める 五、少年団の自主的活動を推進する 六、夏休みレクリエーションの再検討 七、旅行の資料を作成し町内育友会へ配布する 八、毎月一回部会を開き情報交換及び持ちより議題で討議する</p>	<p>一、球技大会 七月二十八日(日) 七月二十九日(月) 雨天の場合翌日の二十九日(月) 男子ソフトボール 於霊丘公園 女子ソフトベースボール 於学校 二、水泳大会 八月二十五日(日) 於三小プール 三、育友会町内対抗バレー大会 九月二十二日(日) 於一中・二小体育館 四、家族ハイキング 十一月(日未定) 学校集合→市営サッカー場 五、小学校秋季運動会参加 六、町内対抗バレー 七、各行事の前後に部会を開催する予定</p>
<p>一、交通安全の皆無を期する 二、交通安全講習会を開き会員の交通安全技術の向上を図る 三、登校時における子供たちの交通安全指導をする 四、学校と連絡をとり通学路の点検を通して事故を未然に防ぐよう努力する 五、交通安全運動に協力する</p>	<p>一、親しまれる「がんば」にする 二、ためになる「がんば」にする 三、わかりやすい「がんば」にする 四、会員の投稿をできるだけ読み取り入れる 五、読みやすいために「がんば」にする 六、余裕をもたせる</p> <p>一、本年度の「がんば」の発行回数を7/20・12/20・3/15の三回を予定 二、「がんば」をどの程度読んでもらっているかを知るためにアンケートをとる 三、取材要領は次の各活動より取材する 四、会員の投稿 五、専門部活動 六、町内活動</p>	<p>一、教育環境(施設・備)の改善と充実を図る 二、校舎の改築と充実に施設整備の改築と充実に協力する 三、体育館建設の促進に協力する</p> <p>一、校内施設・備の実態調査 二、改善箇所等について当局への陳情 三、会員の奉仕作業 四、環境の整備については学校側より要請された場合できるだけこれに協力する</p>	<p>一、会員の親睦とレクリエーションの行事の企画運営 二、校外における健全な少年団活動の育成に努力する 三、球技練習その他少年団の自主的な活動と援助 四、練習時間など児童とよく話し合いで約束を守る 五、会員の親睦と家庭での話し合いの時間をもちつためのレクリエーションの提起</p>

研修旅行に

参加して

教養部 上田 敏夫

発達した低気圧が九州北部を東北東に向けて通過中、ちよらど梅雨の季節とはいいいながら、大雨注意報発令中、最悪の条件の下での出発でした。こんな、どしゃぶりで、お互いに足が鈍るのではないかと思われましたが、それでもバスは、午前七時半、定期通り発車しました。

「誰かの精進が悪かったの、今日は雨に見舞われたのでしよう……。」と冗談まじりの育友会長、教養部長さんの挨拶に、車内の空気が少しづつほぐれていきました。ガイドさんは、愛想のよい娘さんで、フロントガラスにはてるてる坊主がゆれていました。

小島小学校、今日の研修訪問校は、学級数四十、職員数四十九、私達の三小より数の上ではもうひとまわり大きく学年を単位とした育友会活動がさかんであり、校外生活指導にも力を入れている小学校

だそうです。教養部長さんから、そのような予備知識を受け、さぞかし、大きな校舎と広い運動場がある学校だろうと予想していました。

昭和49年6月21日

研修旅行



謙早を過ぎ、長崎思案橋付近でバスを降りました。流れの早い川沿いの、自動車がやと通る程の狭い石だたみの

道。右手は古い家並、左手は、これも古い家と新建材の家がまじり合って、急な傾斜地に積み重ねたような長崎独特の住宅風景。高平町から愛宕一丁目とくねくねと曲がった上り勾配の道を約十分、少し汗ばむ頃、思いがけない所に学校はあり、その前に立った時、私は「あっ。」と驚きました。こんな言い方は小島小学校の方には悪いと思いますが、無意識のうちに三小と比較していました。三小の玄関は、古くさい程、堂々としています。島原市内の小学校は、どこも大きい校舎と広い庭を持って

います。郡内の小学校も。ところが、この小学校はどう見てもあまり堂々としていない二階建の玄関口(後でわかった事ですが、ここは、実際は二階だったのです。)その左手、下にある幼稚園のくらの狭い運動場。よく見ると三階建の古い校舎や、新しい建物で取りまかれ、増築でこんなに狭められた事は理解出来ませんでした。

研修旅行に初参加した「井の中の蛙」の私には、都会にはこんな学校もあるのだということを知らなかつたのでした。

又、大きな校舎と広い校庭があるのが学校なんだという概念が頭の中にあつたのでした。「運動会はどうしてやるのだろう、こんな狭い運動場で。」そんな事を考えていたのは私ばかりではなかつたようでした。

「早くはいってください。」と促されるまで突立っていましたが、ところがどうでしょう。この「父母と教師の会」の活動は、それはどうして、仲々活発で立派なものでした。育友会の方々の出迎えを受けて、玄関上の図書室(三階)に案内されました。まず、校長先生から、ご挨拶と小島小学校の概要についてお話がありました。それによりまずこの学校は創立八十八年。生徒数約一、六〇〇名。四十学級。職員数五十名。増築で校庭が狭められ、生徒一人当りの面積は一、一㎡。運動会は昨年が中学校の校庭を借りて行ったそう、日曜日しか借れないので、島原であつたような教師側と育友会側の期日をめぐっての対立はなかつたこと。子供の質は、上、中、下とわけて、中の上に集中して下は非常に少く、また上も少

く、保護者の職業は、会社員、公務員で六十一名を占めていること。育友会活動の特色、又、長崎の地理的特徴として、だんだんや坂道が多く子供はそんな所を歩くのが実に上手だが、それだけに、母親達の心配も多く、そんな事もふくめて交通安全母の会が出来、その活動が全国表彰を受けたこと等でした。

続いて、副会長さんのご挨拶。副会長さんは、坪井さんといつて若く美しい方で、始めにこやかに司会をつとめられました。ハキハキとして、仲々しっかりした方のように見受けられました。

教頭先生が、三小と三小地区の概要について話され、又、吉田会長さんが挨拶と三小育友会の状況について説明されました。その後、坪井副会長さんの、会の組織、運営や活動についてお話があり、各学年の理事、校外生活指導部の方々十数名が紹介されました。

小島小学校父母と教師の会の特色は、学年学級を主体とした活動に目標をおいている事です。三年前に専門部活動は、校外生活指導部だけ残して学年学級活動に切りかえて

しまったそうです。一学級から四名の委員を選出し、学年学級委員会を構成し、その中から理事を出し、理事会をもっています。理事会は、三小育友会の常任委員会のようなものです。このような活動のやり方は、地域の違いから出るものであろうと思います。各種会議は昼の時間に開かれるので、出席者は女性ばかり、共働きが少ないのかという質問も出ましたが、タイムで働いている人がかなり多いようです。男性は会長と理事が一人、婦人だけで運営しているようなものです。PTA懇談会(略してP懇と愛称で呼ばれている)というものがあって、五年前「先生休まないで」というテレビ放送がきっかけで生れ、学級学年のわくをはずし、全体的な問題を教師側と親側とでフリーに話し合っているそうです。例えば、現代っ子の躰け、塾の問題、子供の成績と通知表、小づかいの事など、大変参考になる意見も多く出るそうです。

通学路が六ヶ所あって、ここでは、警察の協力も得て、毎日、お母さん達が交替で、集団登校する子供達の安全のため、に活躍しているそうです。詳しい事はわかりませんが、たが、街頭に立たれるお母さん達に事故があった時に備えて何か制度があるそうで、皆それに加わって居られるとか、その他、交通、広報、部会等の活動についてお互に質問し活動状況等、情報を交換し合いました。又、学級委員の選考はどうしているか、紙上投票等やっているのか。会合の出席率はどうか、出席率を高めるためにどうしているのか。塾の事、小使いの与え方はどうしているか。子供は父をどう見ているか。ベルマークはどのように処理しているのか等々、いろいろな質問や意見が和やかなうちに活発になされ予定の時間をオーバーし十二時近くになって、午前の授業を終えるチャイムが響きました。長崎の鐘のように、落ち着いた明るい音色でした。

この校舎に入って二時間あまり、私達は小島小学校校育友会のお母さん達が、子供達の教育、健康や安全の為に熱心に活動して居られる姿を思い浮かべながら、お礼の言葉を述べ、帰途につきました。

育友会研修旅行 アンケートから

長崎市小島小学校校視察

教養部

- ①本年度の研修旅行はよかったですと思いますか
- 「大変よかったです」という人がほとんどでした。
- 意見交換が活発になされ有意義であった。
- 自分の目で見、耳で聞いていけば勉強になった。
- ②小島小学校について
- 育友会活動、運営など主体的な努力がみられましたか
- 女の方が非常に熱心に、しかも積極的に運営、活動に参加されている姿に接し、おどろき、感心しました。
- 父兄と先生との話し合いの場がよくもたれ、参考になった。
- 校外生活指導、安全指導等主体的な活動がみられた。
- 講演会、社会見学等も学年学級部会で実施されていた。
- 昼間の会合で出席率も、八〇%以上である。見習いたいものである。
- ③自由行動はいかがでしたか
- 適当な時間でよかったです。
- ゆっくりしてどこでも楽しくショッピングができました。
- 時間があまってたいくつした。
- いろいろなフアッシュンなど目新しい勉強ができてよかったです。
- ④車内でのことについて
- 五〇人前後の車で座席もゆっくりできてよかったです。
- 静かでした。
- 指定席なのでまごつかなくてよかったです。
- ⑤来年度の研修希望は
- 人数は少数で、自由時間は少なくして、相手校との話し合いを長くしたいものだ。
- 人数を制限してバス一台がよい。
- 本年も是非希望していきます。
- ⑥その他お気づきがありましたら
- 学年、学級と小世帯にして行事をやると、もっと

育友会の「会員だ」と自覚して、役員だけの活動に終わることはないと思う。三小も専門部活動をやめて学級学年活動中心の育友会を考える時期にきているのではないかと思う。学年学級を基礎とした育友会活動には、一面無理のあるような点が考えられる。地域社会連帯感の欠除となり、子供達の人間育成の面で、利己的な面がむき出しとなる部面が考えられる。

○できるだけ役員の方の参加がのぞましいようだ。

○みんなの前で堂々と話ができるようにまず自分をみがかねばと思った。

以上、アンケートを整理してみました。細かい点につきましてはのご指摘など沢山ありましたが紙数の都合で割愛させていただきます。

教養部会の反省では、長崎も島原も同じ程度にがんばっているのではないだろうか。本当の育友会活動のねらいは、何か、など、もっと、もっとと原点に立って考えなおしてみよう。面もあるのでは、なからうかというところで、旅行参加の皆様大変ご苦勞さまでした。どうか町内でも視察のようすを是非お話し頂き来年度の旅行がまた、よりよい旅行でありますように祈っています。(文責 本多 茂)

修学旅行

六年二組 中村 公美



修学旅行の中で、一番心に残ったのは、旅館だ。特に、えんげい会が、楽しかった。

その中でも、剛君が、沢田研二のまねをしたのが印象的だった。あんな大げいの目の前

でたった一人で、歌って、おどっている中村君をみると、勇気があるなあと感じた。

えんげい会が、終わってへやにもどった。先生から、お金をもらってさっそく、おみやげを買った。一千五百円のお金をどういうふうか、やりくりするといのか、と考えながら買った。考えがまとまると、姉には、くじやくペン、父には、くるみのすず、妹には、竹すずを買った。

ねる時間になると、歯をみがいた。なかなかねむれない。先生から、かい談話をしてもらっても、ねむれない。

いい気分、でている人がうらやましい気持ちになった。お便所へも、友達に、ついてきてもらったり、又連れていったりもした。

朝方になって、ねたので、あまりねむれなかった。それにねぞうが悪いので、友達にめいわくを、かけたような気がする。一日のつかれが、どつと出て、次の朝はだるかった。みんな朝ごはんを大広間で食べた。

今日は、歩くのが多いのでたくさん食べた。旅館でおべんとうを、もらって、旅館を

出た。

そこから、熊本城へ行った。島原とちがった、石がぎ、どっしりとした熊本城。今にも、のしかかってくるような大きな城。それは、島原より、大きく城の数も多く、緑が、とても多かった。

加藤清正が、愛用していたいろいろなものを見ると、今にも、清正が動いてくるような気がした。

いろいろな所を見てまわって、二日間、とても楽しい修学旅行であった。

この旅行は、私の心に一生残るだろう。

※ ※ ※

六年一組

上田 敏秀

午前七時五十分、ぼくたちは、三小をあとにして外港へ向かった。外港からフェリーに乗り松島港へと向かう。おだやかな、有明海を、一時間三十分。手をのばせば、とどきそうなきよりで、湯島のそばを通り、松島港へ着いた。

展望台からは、天草の島々、それに天草五橋が見わたせ、遠くには、雲仙岳が雲に見え

かくれしながら、どっしりと立っている。展望台で写真に写り、再びバスに乗り、天草五橋を五号橋から順に渡りはじめた。海の水が青くすんで手にすくって見たくなるほどだった。ガイドさんの五橋のことについての説明を聞いてこの橋を作った人々に、感謝の気持ちを持った。五橋を渡り終わって待ちに待った阿蘇へ向かう。宇土半島をバスで走りながら一号橋を見ると、橋を作った人々の努力が再び心にこみあげてきた。宇土市を通り、熊本を過ぎ、大津街道にでた。道の両側にすぎの木が何本も何本も、ぼくたちをむかえるように立ち並んでいる。立野火口瀬を過ぎ、赤水に着いた。ここで、昼食を取り、バスに乗り、阿蘇へ向かった。

行く途中、米塚というきれいな、まるで富士山のようななだらかなすそを引いた、小さな山が見えてきた。ぼくは、米塚山の美しさに再度目を見張った。前に見た時よりも、緑があざやかで、大きな感じがしたからだ。

阿蘇山西駅に着いた。ロープウェーで登ると、下の火口

岩や、火口から出るふんえんがかすかに見えていた。火口に着くと、いおうのガスのおいが、鼻をついた。火口を歩いていると風が強く、今にもふき飛ばされそうになった。雨雲がかかっている、思うように火口の中は見られなかったのが残念である。火口のまわりにはたいひ小屋がある。それは、とつぜん、ふん火したときに、ひなんするためには作られたものである。火口からおり、草千里へ向かった。阿蘇山頂で写真が写

せなかったので、草千里で写された。写真に写ってからは、小高い丘があったので登った。登ると中、馬にまたがっている人、しばふの上でフォークダンスをしている人たちの姿も見えた。丘の上に登り着くと、だいぶ高く下の人たちがありのように小さく見えた。草千里は、名前のように、広々と草原が続くすばらしいながめであった。阿蘇山、草千里をあとにして、宿舎へ向かった。

一年生に入学させて

一年一組 松田玲子

待ちに待った入学の日が来ました。朝から雨だったので、「雨でもよか、早く学校へ行こう。」と子供から云われ家を出る。その喜び様：一年一組の教室に入り自分の名前を探す真剣な顔、自分の席に座り、どんな友達がいるのかなと思って見ている顔、そんな二女の顔を見てホッといたしました。長女の入学の時は、私自身、心はずませず学校へ行ったのでしたが、

今年の二女の入学は、ほんと云って入学の日まで喜びよりも不安な気持ちでいっぱいでした。入学前にランドセルを一度も背おった事もなく、人からもうすぐ一年生で学校ね、嬉しいでしようと思われても、「嬉しゅうなか」、等と云っていたので私も心配したのですけど、今では学校が面白くてたまらない様です。親が思っている程ではなかった様でした。

入学して早や三ヶ月になりましたが「学校は面白かよ、うちたちの先生ほんにやさしかよ、給食もおいしく何んでも食べるとよ、食べないと先生からしかられるもん。」等と云い何んでも親の云う事より先生のおっしゃる事は素直に「はい」と聞く元気な子供になりました。帰ってくるなり又、学校に遊びに行ったり、姉といっしょにいる時はケンカもしている様です。友達の家遊びに出かけても四時になつたら必ず帰って来て夕方忙しい仕事の時間を弟の子守等して手伝ってくれます。又学校で習った事、友達の間、重いランドセルをおろそうともせず一生懸命話をして二女を見て何かジーンとこみあげて来るのでした。家での一番の人気者です。これも先生方の暖かい気持ちに支えられて毎日子供達も成長して行っているのだと喜んでおります。

交通部誕生五周年を迎え、去る六月十二日に交通安全講習会を三小音楽室で開催致しました。「母子の交通安全」上映警察交通課関先生の講話
映画では大人の心ない行為が大きな事故につながるような場面がよく写し出されてありましてよい反省資料であつたと感じました。
講話の中で、自転車の乗り方と登下校についての指導があり、特に次の点に注意する

- ① 速度の出し過ぎをしない
 - ② 一時停止をよく守る
 - ③ 右折左折は合図をする
 - ④ 保護者が模範を示すこと
 - ⑤ 登下校の注意として
 - ① 忘れ物をしない
 - ② 時間的な余裕をもたせる
 - ③ 子供の通学路を通じて交通量や道路状況を知り指導をしてほしい
- 映画に引続き講話と本当に有意義な講習会であつたと思ひます。毎日元気に登校している子供達の姿を見る時、交

交通部より

交通部長 伊藤八郎

通ルールが随分と身につけてきているなあと感じると共に、それまでお育て下さつた先生方や部員ならびに会員の皆様方の御協力に感謝せずにはいられません。
尚、交通部会で検討致して居りました、通学路整備につきまして、二中とも相談致しまして両校並びに育友会と共同で陳情致す事になり、六月二十二日に二中藤井校長先生、芥会長、三小より園田教頭先生、吉田会長、福島環境部長さんと揃って、宮崎市長さんと浜田警察署長さんへ陳情に行き、次の地点の安全対策をお願い致しました。



新しい先生の

紹介



小鉢市兵衛先生
(五年四組担任)



奥村 馨先生
(三年三組担任)



本多恵子先生
(音楽専科担任)



伊藤美知子先生
(六年三組担任)



谷口富子先生
(愛護学級担任)



松崎陽子先生
(一年四組担任)

無題

広馬場 亀本忠晴

「がんば」ば書け、「がんば」ば書けと、何べんも何べんもさいそくしてくる。「おるがごたるもんが、何んも書ききるもんかね」と云って、只今テレビの新日本紀行(佐賀市)の番組を見て居る処である。本業の作家でも「そがんすぐ書けるもんかね。」と心の中で云いながら、まだテレビを見て居ると、子供はふくれつらを益々曇らせて、雨が降る様で何だか、すねた様な状態となって来る。「はよ、書いてやらんね。」と又々、家内が大声でいかく射撃して来た。本当におやじとしては、たまったもんじゃない。やっとゆっくりテレビ番組で落ちつこうとしている(少しでも社会勉強している?)と、「がんば」せめである。今出して、それ書けでは、本当に困った。皆さんは如何でしたか。

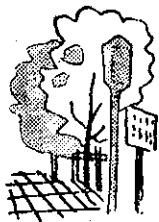
* * * * *

もてない父親

下川尻北 内島末明

夕食後のひととき、子供達と冗談を言い合っているうち

に、娘(小二)の理想の男性?は、という話に発展しました。高二ならともかく、小二の娘の理想の男性もないもんだと眉をひそめられる方もあるうが、まあ聞いて下さい。父親である私は、心ひそかにおとうさんみたいなのが、いいという一言を愚かにも期待していたのですよ。ところがどうでしょう、娘の口をついて出た言葉はお父さんみたいの色が黒くて眼鏡をかけて、それからお酒を飲む人はいや……というショックな発言じゃありませんか。青菜に塩とはこのことでしょうか。本当にガックリきました。妻が気の毒がってお父さんは外でばかり仕事をすから黒かどよと弁解につとめてくれましたが、どうもすっきりしません。今更眼鏡はどうしょうもないが、せめて帽子でもかぶって陽やけを防ぎ少しでも娘の理想に近づこうと、イメージチェンジを試みている、もてない父親です。



忘れていた

父の日

南風泊町 高木 進

六月の半ば過ぎたある日のことである。

突然 子供達が、「はい お父さんに、プレゼント」といって、紙包みを渡したので、私は、はてな 今日は何の日かなあとと思って、色々と考えたけれど、どうしても思い出せないでいると、末っ子が「お父さん、忘れていたのね、今日は父の日だよ。」といったので、ようやく思い出しました。すると、末っ子が、「お父さんも、この頃大分もうろくしたね。」といったので、みんな笑い出してしまいました。

小犬の散歩

栄町 石本千和

小犬を散歩につれて行くよと元氣よく 出かけて行った

大きな犬から吠えられて

怖がる 小犬を抱いて

走って通りすぎ

又 犬を歩かせる

しばらく行くと

田植をしている人を見て

小犬が後すだる

何か怖いものだと思ったのだ

「怖くないよ 怖くないよ」と云いながら帰って来た

お母さん

もうあの道は通らないよと泣き顔で云う

編集後記



本年度第一号の「がんば」をおとどけ致します。原稿をお寄せ下さった方々や、又ご投稿戴きました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。紙面の都合で全部を掲載することが出来ませんでしたので、次号以後、順次掲載させて頂いております。今後共宜敷くお願い致します。